人権啓発ネットワーク大東機関誌　第30号
２０２４年３月

ぬくもり

編集と発行　人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555　大阪府大東市谷川１丁目１番１号
電話 072-870-0441　FAX072-872-2268

人権週間記念のつどい　ネットワーク大東設立 10 周年記念事業

MINAMATA
―ミナマター―

ストーリー

1971年、ニューヨーク。アメリカを代表する写真家の一人と称えられたユージン・スミスは、今では酒に溺れ荒んだ生活を送っていた。そんな時、アイリーンと名乗る女性から、熊本県水俣市にあるチッソ工場が海に流す有害物質によって苦しむ人々を撮影してほしいと頼まれる。有機水銀に冒され歩くことも話すことも出来ない子どもたち、激化する抗議運動、それを力で押さえつける工場側。そんな光景に驚きながらも冷静にシャッターを切り続けるユージンだったが、ある事がきっかけで自身も危険な反撃にあう。追い詰められたユージンは、水俣病と共に生きる人々にある提案をし、彼自身の人生と世界を変える写真を撮る。

今年の人権週間記念のつどいは、映画「MINAMATA―ミナマター」の上映と、そのモデルとなったユージン・スミスさんと共に水俣病の取材をし、今も水俣病をはじめとした環境問題に取り組んでおられるアイリーン・美緒子・スミスさんの講演会が～ユージンと私の MINAMATA～と題して開催されました。

イタイイタイ病、四日市ぜんそく、第二水俣病と共に「四大公害病」に数えられ、学校の授業でも取り上げられる水俣病。映像記録などで様子を見たことがある方もたくさんおられるのではないでしょうか。ですが、当時の「闘い」の息遣いを感じたことのある方は少ないと思います。映画を見てわたしが感じたことの一つは、まぎれもなくこれは「闘いだった」ということです。

この映画では、カメラマンのユージンを通してその闘いを追体験していきます。異国の地からやってきたカメラマンへ当初は心をひらけない地域住民の様子や、闘う地域住民の間での軋轢、工場側の隠蔽や暴力的な制圧など、教科書の中からは決して触れることの出来ない水俣病の側面が鮮明に描かれています。とある登場人物が「戦争が嫌いな我々が起こす戦争」とこの闘いを表現していました。映画の中のセリフとはいえ、日本国内で起こった自分たち自身や

尊厳を守るための闘いを「戦争」と表現しなくてはならない状況に胸が詰まります。

映画の中で、ユージンはよく悪態をつく、少し怖い人物として描かれているように感じました。しかし、被写体（患者）に対する所作や「写真を撮ること」への思いなどから見える彼のジャーナリズムはとても温かみを感じます。実際、講演会の中で語られたユージンさん本人は、とてもユニークでニコニコ冗談をいつも言い、子どもたちからも好かれる人物だったようです。

映画の中で2つ印象に残っているシーンを紹介したいと思います。ユージンとアイリーンの活躍で、工場側が長年水俣病の事実を隠してきたことが明らかになった際、激しく動揺、怒りをあらわにするアイリーンに、ユージンは工場にカメラを向けさせ、「感情的になってはならない。何を伝えたいかに集中するんだ。」と冷静に伝えます。講演会でもユージンさんの信念を「公平で正直であること」「主観であること」「被写体への責任と見る人への責任を負う」と紹介されていました。

そしてもう一つが終盤、地域の会合の場でユージンが地域に「どうか僕に皆さんの家族の大事な時間を共有させてほしい。」「そうすれば闘いの手助けができる。」と語り掛けたシーンです。写真を撮らせてほしい、ということをこう表現したのです。闘うための写真というだけでなく、そこで営まれている「家族の大事な時間」を最大限に尊重したこの言葉選びにユージンの覚悟や責任を感じ、スクリーンの前で震えるほどに感動したのでした。

（レポーター：卓ちゃん）

映画「MINAMATA」から、　もう一度水俣病を知ってもらいたい
～ 水俣病患者の家族として ～

皆さんは、学校の試験のために水俣病も含め四大公害病を暗記されたことがあったでしょう。当事者でない方は、水俣病を正直教科書の歴史としてしか捉えてないと思います。

私の母は、熊本県水俣市出身で、幼い時から当たり前のように魚を食べて大きくなりました。体内は有機水銀に汚染されたまま結婚しましたが、長女は、産まれてすぐに痙攣を何度か繰り返し亡くなりました。長男は、生まれながらに病弱でした。長男出産後すぐに、夫も痙攣を何度も繰り返し亡くなりました。母は、長男を背負い何度も自殺を図ったそうです。その後母は、幸い私の父と再婚するのですが、父の実家からは水俣市出身という事で結婚に反対され、近所の人からも、「病気がうつる。」と言われ差別されてきました。

母は、長男が病弱なのは胎児性水俣病だと、そして、自分も水俣病患者だと考え、それを調べる為に長男と共に熊本の病院に入院しました。その期間中、次女の私は水俣市の小学校に転校し祖父母の家で暮らします。ちょうどその時期、映画 MINAMATA にも訴訟のシーンが出てきますが、同じように母は私たちを連れて座り込みをして闘いました。

その後も、この紙面では語りつくせない様々な困難がありました。水俣病は、病気の苦しみだけでなく、人の人生をも狂わせた公害病です。繰り返してほしくない！決して忘れてほしくないです。

（レポーター：なっちゃん）

平和なまち絵画コンテスト　&
マスコットキャラクター名称作品　表彰式を行いました

平和なまち絵画コンテストとは、平和教育の更なる充実を目的として、平和首長会議が実施する絵画コンテストであり、本市におきましても、2023 年８月に、市内の６歳から 15 歳の方を対象に絵画作品を広く募(つの)り、41 作品の応募がありました。人権啓発ネットワーク大東の委員により選考を行い、最優秀作品には 6 歳～10 歳の部で**釜賣　星那(かまうり　せな)**さん（１０歳）、11 歳～15 歳の部で**平山　和(ひらやま　のどか)**さん（１５歳）が選ばれました。

そして、それぞれの部から各４作品を入選として決定しました。

最優秀作品、入選作品に選出された方の作品については、平和首長会議に応募を行いました。

釜賣(かまうり)　星那(せな)さん（表彰式写真右）

・平和をイメージしてみんな笑顔で平和といえば虹とか鳥だから虹と鳥をかきました。
・平和は、みんなが笑顔で素敵な毎日をおくっているから上にも平和の風船をかきました

平山(ひらやま)　和(のどか)さん（表彰式写真中央）

色々な国がつながり世界が平和になることを願って作った作品です

また、人権啓発ネットワーク大東のマスコットキャラクター名称「はぴくる」については、

最優秀賞である**室谷ひなの(むろたに　ひなの)**さん（６歳）**（表彰式写真左）**が表彰状を授与されました。

「はぴくる」です!

入賞作品につきましては、ホームページからご確認いただけます。

ご参加いただきました皆さまありがとうございました。

https://www.city.daito.lg.jp/soshiki/19/31483.html

2023 年度重点啓発テーマ「子どもの人権」

大東市の「子ども食堂」

前号より、大東市で運営されている「子ども食堂」を順に取材させていただいております。今回は、**子ども食堂「ほっこり」** さんです。

※ 過去の「ぬくもり」は、大東市ホームページでご覧いただけます。→　→　→

閑静な住宅街にある一軒家は、実家に帰ってきたような安心できる佇まいです。欄間もある広い活動スペースには、たくさんの絵本や赤ちゃん用のベッドも置かれ、裏庭には大根が干されている「ほっこり」する場所です。

～ ～ ～

2023 年最後の子ども食堂は 12 月 23 日ということもあり、クリスマスを意識したメニューでした。「だいとう　かみしばいサークルふるさと」さんの紙芝居に、奄美大島の支援者から届いた野菜の話やビンゴ大会、サンタさんからお菓子のプレゼントもあり、子どもたちも親も楽しいひと時を過ごしました。

「ほっこり」は、2016 年 11 月に、大東市で 3 番めに開かれた子ども食堂です。「栄養のバランスの取れた食事を食べ孤食を改善する。」「食事を通じて家庭と学校以外の居場所を作り子どもの成長を支える場。（子育て支援、学習支援も含む）」という目的のもと開始しました。当初は月 1 回でしたが、そのうち月 2 回となり、行政から補助金も受けられるようになりました。

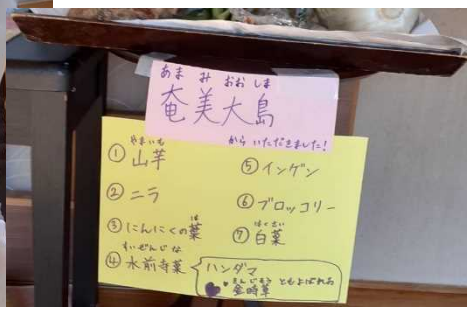
最初は集まる子どもも少なく、「ウチは大丈夫。」と断られたり、「行ったらあかん！」と親が言うなど、子ども食堂に対する偏見の声もありました。その中で、児童クラブや学校をはじめ、あちこちにチラシを配り、地域の方々にお願いをしてポスターを貼り、少しずつ参加者は増えてきました。

生協やお店など、協力いただける方々もたくさんいらっしゃいます。匿名でお菓子を届けて下さる方、軽トラで野菜を運んで下さる方など、数え上げるときりがありません。食事の提供だけでなく、絵本の読み聞かせ、公園の遊び、夏休みの宿題や勉強会など、イベントも盛りだくさん取り組んできました。

ところが、2020 年のコロナ禍により、子ども食堂「ほっこり」での食事が困難となりました。それでもつながりを続けようと、お弁当を月 2 回配りました。やっと 2023 年 4 月から月 1 回は「ほっこり」での食事に戻ることができ、子どもたちの「美味しい!」の笑顔に直接触れることができるようになりました。

毎回のメニューも大変ですが、寄付してくださった方々の気持ちも大切に考え、手作りで季節感のあるメニューを心がけています。お弁当には季節ごとのあいさつや、寄付いただいた方々への感謝を綴った手紙を添えています。

幼児・小学生が中心で、中学生も来ます。最初、話さなかった子も、少しずつ心を開いて話をするようになります。長い時間をかけて分かり合えるのです。近所で会って、あいさつを交わすと嬉しくなります。「ほっこり」をきっかけに子どもどうしのつながりも生まれます。スタッフには元教員や元保育士、調理師、大阪産業大学の「赤十字ボランティア」の学生（子どもたちと年齢が近いので貴重な存在です。）などがいて、子育ての相談を受けることもあります。



子ども食堂「ほっこり」のつながりから、もっと様々な取り組みに発展させるために、市・学校・地域の方々と連携しながら進めていきたいと思っています。来ていない子にも「何かあったときに思い出して～」という思いで、チラシを配り続けています。

ここは、いろんな人とつながれる場です。親ともつながることが大事と思います。生活に困っていなくても、子育て中に、月 2 回でも利用してくださる方にとって「ほっこり」とできる居場所作りができればと願っています。

～ ～ ～

今回筆者は、残念ながら子ども食堂開催中に取材することができず、スタッフの方々にお話をうかがい、たくさんの写真や資料を見せていただいて書かせていただきました。その中で、熱い思いや楽しさ、ご苦労に触れることができました。後日ぜひ開催中におじゃまして、子どもたちの笑顔に直接出会い、小さなお手伝いができればと思います。

（レポーター：あき）

＊　主催者	子ども食堂「ほっこり」
＊　名　称	子ども食堂「ほっこり」
＊　場　所	大東市三箇 1-2-29 NPO 法人だいとう子育て支援ネットちゃおちゃお内 TEL 072-865-0910
＊　実施日時	第 3 金曜日（子どものお弁当のみ）17：00～18：00 第 4 土曜日：一部 11：45～12：30、二部 12：30～13：15
＊　参加料	子ども（～中学生まで）：無料、大人：300 円
＊　定　員	お弁当 75 食、一部二部各々25 名

人権啓発ネットワーク大東 役員・常設委員交流フィールドワーク

ウトロ平和祈念館の見学
～ 困難を乗り越えて、共に新しい未来へ ～

2023 年 11 月 13 日（月）、9 名の役員・会員と 3 名の事務局参加により、京都府にある「ウトロ平和祈念館」の見学に行ってまいりました。「立ち退き」の裁判（敗訴のち国連より救済勧告、韓国救済基金、市営住宅建設へ…）や、2021 年放火事件を報道等で知り、2022 年 9 月のオープン以来、ずっと訪問したく思っていました。昼過ぎに到着すると、副館長の金秀煥さんが出迎えてくださり、ご案内いただきました。

祈念館は、ボランティア・スタッフが運営しています。1 階多目的ホールには書物などが充実し、2 階より上には生活用品や楽器、写真や映像、「なぜ日本（そしてウトロ）に在日朝鮮人が多く暮らすのか？」の系統立てた資料等が多く展示され、あるオモニ（お母さん）の部屋の再現など、盛りだくさんの内容です。

「ウトロ」とは元の地名をもじった通称で、ハングル（朝鮮語）の意味もありません。この地区は、1943 年ごろから飛行場建設に集められた朝鮮人労働者たちの飯場跡に形成された集落で、甲子園のグラウンドほどの広さに現在約 60世帯（もとは約 90 世帯）が暮らしています。

先の戦争中、困窮のためや労務動員としてウトロ地区に住み着き、戦後、朝鮮半島に生活の基盤を失っていた多くの方々がそのまま残りました。仕事に就きたくても就職差別があるため、お金になることは何でもやったそうです。豚小屋があったこともあり、「あそこは臭い・汚い…。」と偏見が広がり、「治安が悪い。」と日本人は近寄りませんでした。学校や職場でもイジメや差別がありました。民族衣装の白いチョゴリを着たオモニが、地区外で出会った自分の子どもに声をかけると、朝鮮人だと他の人にバレたくなくて、「話しかけるな！来るな！」と子どもに言われたそうです。

のちに、自衛隊（国）の所有だったこの場所は民間に払い下げられ、「不法占拠」として強制退去させるため、早朝に 1,000 人もの警察官が来たこともあったそうです。国策で当時日本国籍としてウトロに住まされて、今は外国人として民民（住民と所有者）の争いをしているのだと、何の補償もないまま放置されました。少なくとも「内外人平等の原則」すら守られていません。立ち退き問題は裁判となり、裁判中は下水漏れや雨漏りなどの、家の補修もできません。先に書いた「再現されたオモニの部屋」も、家の傾きを押さえるために天井を支える太い仮設パイプが大黒柱のようにデンとあり、雨漏り受けの丼鉢が床に置かれていました。

そんな過酷な環境でしたが、住民は生きることを楽しむように快活でした。「ご飯食べたか？」があいさつで、自分の生活もしんどいのに、お腹のすいた人にはご飯を振舞いました。「しみったれた顔してても何もなれへん。」「生きてたら何とかなる。」と言い合いました。

1980 年半ばから日本人からも支援者が出てきました。例えば未だ井戸水を使用していたウトロの状況を、「放置するのは全市民の恥！」と共に運動しました。また、韓国でも著名人が呼びかけ多くの募金を集め、祈念館や街づくりの大きな力となりました。

祈念館には全国から見学に来られ、計画では年間 2,000 人の見込みだったものが、約 13,000 人来られています。日本人大学生がドキュメンタリー映画（上映会は 60 名参加）を作成したり、地元の中学校の 3 年生全員がフィールドワークで学びに来たりと、交流もさかんになりました。韓国からも高校生が来て、言葉は通じなくても楽しく一緒に遊びました。堅苦しい見学だけでなく、学校帰りに前庭でバスケットをしに寄ったりする子もいます。子どもたちは、「認識はしていたが、歴史や経緯は知らなかった。大人は誰も教えてくれなかった。」と言います。ハルモニ（お婆さん）は「子どもがたくさん来てくれて嬉しい。」とニコニコ顔です。

参加者から「なぜ祈念という文字なのですか？」と質問が出ました。金さんは、「戦争から生まれたウトロという地域を守り抜いた人々の姿を通じて、人権と平和の大切さ、共に生きて出会うことの素晴らしさを伝えていける場所にしたい。困難を乗り越えて、あわれみや同情ではなく、共に新しい未来を作る希望を祈念したい。」と答えられました。「差別は、かわいそうな他者の問題ではなく、社会一人ひとりの問題です。」という言葉も、強く印象に残りました。

ウトロに生きる人々と、ウトロに寄り添ってきた日本・在日・韓国の市民の協力で、人々の尊厳と生活を守ってきた歴史を、そこに住む方たちの息遣いと共に実感できる祈念館でした。　（レポーター：あき）

コロナ禍で薄くなった絆を再び強固なものに
―2023 人権啓発ネットワーク大東ふりかえり―

5/1（月）～4（木）
野崎観音慈眼寺

第 40 回人権パネル展
「暗やみに光を灯した人」杉原千畝展

第二次世界大戦中ドイツから迫害されたユダヤ人約 6,000 人にビザを発給し、命を救った杉原千畝氏の資料を展示しました。2,289 名の来場があり、救われた遺族25 万人の中から証言を集めたＤＶＤも上映され、改めて平和の大切さを考えました。

5/12（金）
サーティホール

映画『破戒』の上映と前田和男監督の講演会
～大東市憲法週間記念のつどい～

「今回の映画『破戒』は、100 年後に向けての希望の糧となるように、先人からのバトンを未来に託していく。そんな思いでつくった希望と約束の映画です。」という監督の言葉で講演が終わり、映画「破戒」が上映され、多くの方がそのメッセージを受け止めました。

6/29（木）
会員交流フィールドワーク

自分自身の世界を築くことで生まれる
喜びと幸せのカタチ

滋賀県甲賀市にある障がい者施設「やまなみ工房」の方たちの生きがいや満足感、安心感をもち、喜びや幸せを感じられるような振る舞いに終始徹するその姿勢は素晴らしかったです。見学を通じて、障がいのある人もない人も共に生きやすく心優しい豊かな社会の構築の一つのカタチを感じることができました。

人権啓発ネットワーク大東とは
（ぬくもりネットだいとう）

近年、子ども･障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が 2013 年 4 月 1 日に設立しました。

2023 年、設立 10 周年を記念し、公募を経て「ぬくもりネットだいとう」という愛称が決まりました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。

☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしていいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ（http://www.city.daito.lg.jp/）に掲載していますのでご覧ください。

※「人権啓発ネットワーク大東」の Facebook も開設！
様々な活動の報告や、ほっとひと息いい話といった人権に関する小話など情報発信していますのでこちらもぜひご覧ください。
（https://www.facebook.com/人権啓発ネットワーク大東-1987405014833313/）

入会等の申し込み･問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）
〒574－8555
大東市谷川１丁目１番１号
ＴＥＬ:072－870－0441
ＦＡＸ：072－872－2268
Ｅメール：j_keihatsu@city.daito.lg.jp

はぴくる